

町指定文化財(史跡)

「高久館跡」

指定年月日/昭和四八年一月二〇日  
所在地/城里町高久  
管理・所有者/個人

町指定文化財「高久館跡」は、標高五〇メートルの高久台地縁辺部に位置し、東の水田地帯、北東の不動谷津、西の八幡沢に囲まれた要害の地にあります。主郭部は台地南端部(現在は墓地)で、そこから北側には数多くの曲輪や空堀、土塁が残っています。これらの遺構は主に館集落に集中していますが、さらに北の寄居集落にも空堀があります。

この高久館跡は、佐竹氏七代当主行義の六男で野口(常陸大宮市)に移住した馬淵小三郎景義を祖とする高久氏の居城です。景義の子義有が、嘉元元(一三〇三)年の頃に高久の地頭としてこの地に移り住み、高久城を築いたとされています。

高久氏は、応永一五(一四〇八)年以降百数十年に亘る佐竹氏内紛の時代には、反宗家方として度々佐竹宗家に反旗を翻しました。そ



▲高久館跡(南東方向から)

のため正長元(一四二八)年には、三代義本と四代義景が大山義道に討ち取られ、天文四(一五三五)年には一〇代義貞が佐竹義篤に攻められて城を捨て逃亡しています。

いづれの時も後に許され再興しますが、天文二(一五四三)年、佐竹宗家方として参戦した関山(福島県白河市)の合戦で、義貞と父義時、子の宮寿丸の三代が揃って討ち死にしたことにより、二百数十年続いた高久氏は断絶し、高久城も廃城となりました。

解説文/町文化財保護審議会長小山映一  
問合せ 教育委員会事務局  
029-288-3135

俳句

白菜の重さを選び道の駅 今瀬 多代美  
葱掘るや畑は昼も深く凍て 森 静江  
卒寿の姉の微笑む遺影冬桜 綿引 英子  
白菜や堅き根つ子を切り離し 中野 千賀子  
京菓子の紅の紐解く冬日向 飯村 昭子  
水音の草の根ぐり椶櫚の実 竹内 幸子

川柳

踏み入りてぎはぎは風の芒原 瀬谷 博子  
秋たかし新居の孫の暮らし固めり 岩下 金司  
ふんわりと大地のめぐみ耕せり 田口 勝元  
沈丁の匂いほのかに雪降り 矢次 洋平  
吾亦紅残されて知る夫の思 仲田 まちゑ  
それぞれが恵方に向かひすしを食ふ 寺門 孝子  
踏み入りてぎはぎは風の芒原 瀬谷 博子  
食べて寝てテレビを見ての三日 富田 多蔵  
まだ居るのオレと言う名の詐欺息子 車田 綾子  
今日もまたあれこれそれで日が暮れる 飯村 孝一  
里山や平成最後除夜の鐘 川原 清

文芸しろさと

短歌

庭隅に紫蘇の小花のほろほろと 渡辺 千紗子  
こぼれ平穩にひと日暮れゆく 島 愛子  
紫陽花の咲きてうれしや亡き母の好みし四、五本手折りて供ふ 所 美恵子  
さわやかな歳旦の朝に願いたり 幸せ増して穏しき日々を 山形 式妙  
百歳に近い姉への御無沙汰を心でわび居り健やかに在れ 杉山 みちこ  
爆死せし母若かりき幼われ重ね来し歳月杳きまぼろし 大森 久子

トンネルを抜けて目に入る山々は紅葉も褪せて秋深まりぬ 枝 不美  
夕暮れのしぐれ模様庭に咲くさざんかの花に秋は去りゆく 島 愛子  
右ひだり車窓に刈田広々と越後平野に名残り惜しみて 信田 育子  
「がんばってるばあちゃんすてき」と孫からの手紙嬉しく誕生日迎う 萩谷 登喜子  
奥久慈の笠岩にもみじ訪ねれば阿武隈高地へ連なる山々 富田 佐智子  
一番の宝は己れ頑張ろうやだけやれば晴ればれ自分 富田 欽子

